



<ラムサール通信>

2018年8月4日発行 第191号

●ラムサール条約 COP13（ドバイ）の事前参加登録がはじまりました●

ラムサール条約第13回締約国会議（COP13）は、2018年10月21～29日、アラブ首長国連邦のドバイで開催されます。条約のHPで詳しい広報がはじまりました。プログラム、決議案、主催地の情報などが載っています。<https://www.ramsar.org/about-the-cop13>

また、オンラインでの事前登録受付もはじまりました。ラムサールセンター（RCJ）は、COP13への貢献を今年度の重要な活動と位置づけており、オブザーバーNGOとして参加登録し、会長の岩崎慎平さん、副会長の小山文大さん、事務局長の中村玲子さんを派遣する予定です。

COP13でRCJは、日本国際湿地保全連合（WIJ）、日本湿地学会（JAWS）と共催で、AWS2017佐賀のSaga Statement やEco DRRに焦点をあてて発信するサイドイベントを計画しています。アジア会員のAmado Tolentinoさん、Sansanee Choowaewさんたちの協力も得て実施します。RCJ独自の展示ブースの設置も計画。また、オーストラリアのNGOが計画している「ユースの湿地保全への参加」をテーマにしたサイドイベントには、ユースラムサールジャパン（YRJ）が参加を招聘されています。

RCJ会員で、COP13への参加を考えている方は、まとめた事前登録が可能です。ご一報ください。

●今年度のKODOMO ラムサール、荒尾市（熊本）と南三陸町（宮城）で開催●

2006年からスタートしたKODOMO ラムサール湿地交流活動は、12年目を迎えました。地球環境基金などの助成によるRCJの主体事業として、ラムサール条約登録湿地関係市町村の協力を得て開始した活動でしたが、最近では、登録湿地関係市町村とRCJ、WIJ、YRJなどとの協働取組事業として発展してきました。今年度以下の2か所で開催が予定されています。

～～～KODOMO ラムサール湿地交流 in 荒尾干潟～～～

九州・有明海には3つのラムサール条約登録湿地（荒尾干潟、東よか干潟、肥前鹿島干潟）があり、そのうちもっとも早く2012年7月に登録されたのが熊本県の荒尾干潟（754ha）です。国内有数の規模の砂質干潟で、ノリやアサリの養殖が盛んで、秋から春にかけては多くのシギ・チドリ類が訪れます。

参加申し込み受け付け中で、九州地域の小学4～6年生を中心によびかけています。

開催日：2018年9月23日（日）～24日（祝） ※1泊2日

開催地：熊本県荒尾市・荒尾干潟

主催：荒尾干潟保全・賢明利活用協議会、WIJ / 協力：RCJ、YRJ

※問合せ先：荒尾干潟保全・賢明利活用協議会事務局（荒尾市環境保全課） 電話：0968-63-1386

～～～KODOMO ラムサール in 南三陸町（仮）～～～

宮城県南三陸町の志津川湾が、10月のCOP13（ドバイ）でラムサール条約に登録される予定です。現在、

最終手続きが進められています。その登録を記念して KODOMO ラムサールが来年 2 月に開催されます。暖流と寒流がぶつかる志津川湾は、生物多様性が豊かで、「海の森」と呼ばれる藻場が発達し、静かな内海の環境を利用して、サケ、カキ、ホヤ、ワカメなどの養殖が盛んです。コクガンの有数の越冬地です。南三陸町を中心に、RCJ、WIJ、YRJ、劇団シンデレラなどが協力します。

開催日：2019 年 2 月 9 日（土）～11 日（祝） ※2泊3日

開催地：宮城県南三陸町・志津川湾

※現在、南三陸町で活発に活動する人を中心に実行委員会を組織し、実施計画の詳細を計画中です。詳細は決まり次第お知らせします。

●第 102 回<ワイズユース>ワークショップ 会員トークシリーズその②・報告●

7 月 10 日（火）午後 6 時 15 分から、目黒区田道ふれあい館で、第 102 回<ワイズユース>ワークショップを開催しました。RCJ の会員をスピーカーとして迎えての「会員トークシリーズ」の第 2 回目です。

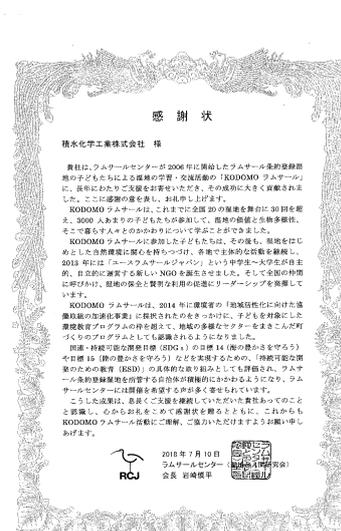
会長の岩崎慎平さん（福岡女子大学准教授）の「CEPA に基づく湿地環境教育実践事例の評価と環境デザインの可能性」、副会長の小山文大さん（大森海苔のふるさと館）の「湿地保全に向けた郷土博物館的アプローチの可能性について」、事務局長中村玲子さんの「バングラデシュ報告：これからの BOB（ベンガル湾）活動の方向性について」の発表と質疑応答がおこなわれました。林聡彦、田辺篤志、佐藤湧馬、亀山保、岡本嶺子、佐々木優、大村弥加、大原みさとさんの計 11 人が参加しました。短い時間ではありましたがそれぞれの分野で何に関心を持ちどのような活動（研究）をしているかを知ることができました。（大村弥加）

●積水化学工業に感謝状を贈りました。ありがとうございます●

RCJ が 2006 年に KODOMO ラムサール活動を開始した直後から、一貫してこの活動に支援を寄せ、日本の湿地環境教育を力強く支えてくれた積水化学工業株式会社に、会員の総意として感謝状を送りました。

7 月 10 日、同社経営戦略部環境経営グループの大久保学グループ長に岩崎慎平会長と中村玲子事務局長がお会いし、長年のご協力への感謝を伝え、これからもよろしくとお伝えしました。

これまでの KODOMO ラムサールには、積水化学工業の社員の家族が参加してくれたことも何回もあります。来年 2 月に南三陸町でおこなう KODOMO ラムサールを見に来てくださいなどの相談もしてきました。



●会員拠出金へのご協力をお願い●

5 月 12 日の第 28 回総会で、RCJ の財政健全化に向けていくつかの提言がありました。そのひとつ、会員拠出金制度の拡充についてご案内します。

会員拠出金制度は、任意のボランティア団体である RCJ の基礎的活動の維持・存続のために、2002 年度に設置された活動資金協力制度です。1 口 10 万円で何口でも協力でき、年度末ごとに解約または更新する期

間限定システムですが、年度途中でも申し出があれば、随時全額または1部の解約に応じてきました。いわば、RCJの活動方針に賛同し、それを遂行するための「出資金」で、協力者は株式会社でいえば株を買ってくれる株主のようなもの。2018年8月現在、12人から332万円の協力をいただいています。「出資」の額はひとり10万円から110万円までさまざまです。

ただし、制度が始まってから時間の経過もあって、最近は、協力者がほとんど増えていません。役員間で検討の結果、制度を現状にあわせて少し見直し、新たな協力者を改めて募ることにしました。

新しい会員拠出金のガイドラインは以下のとおりです。

- ①1口5万円で、1人何口でも受け付ける。
- ②受け付けは随時、協力者からとくに申し出がない限り、年度末に自動更新とする。
- ③申し出があれば、年度途中でも解約に応じる。

この新ガイドラインに沿って、改めて協力者を募ります。RCJを「自分の組織」ととらえ、運動に「主体的に」参加し、「自立して」活動する、真の意味での「ボランティア運動」の実現をめざしていきます。ご意思のある方は事務局までご連絡ください。

●バンングラデシュポーシュの活動地を訪問しました●

2018年6月23日～29日、RCJの友好NGOのバンングラデシュポーシュ(BDP/本部・ダッカ)の重点活動地域、コックスバザールの複数のプロジェクト地を訪問し、活動の進捗を確認するとともに、現地の人たちと交流しました。コックスバザールはバンングラデシュの南西部に位置し、西をベンガル湾、東をミャンマー国境に接する地域で、ミャンマーから逃れてきた数十万人のロヒンギャが集結して国際社会問題になっている場所でもあります。

この地域では現在、RCJの「インド洋ベンガル湾岸諸国の湿地協力国際ネットワークの構築」(BOB活動/KNCF助成事業)、「バンングラデシュ国モヘシュカリ島における学校・モスク施設主導による生態系アプローチに沿った住民参加型植林」(国土緑化推進機構緑の募金助成事業)が進行しているほか、BDPの主体事業である「バンングラデシュ国テクナフ半島の住民によるベンガル湾の生物多様性保全のための『責任ある漁業』の推進」(RCJは日本代理人)など複数の活動が進んでいます。国土緑化推進機構緑の募金事業の専門家として参加した日本マレーシア協会の新井卓治さんはじめ、小山文大副会長、中村玲子事務局長、会員の黒澤信道さん、黒澤優子さん、Bishnu Bhandariさんの6人が参加、雨期の真っ最中の現地視察を楽しみました。全行程をBDP会長でRCJ会員のSanowar Hossainさんが同行しました。



バンングラデシュポーシュの事務所で、サノワさんを囲んで



海水浴を楽しむ人たち。コックスバザールの海岸で



雨の中での植林地視察。左が学校林、右はマングローブの苗床。モヘシュカリ島で



コックスバザール・テクナフ半島で漁業者との交流会に参加